

生

活情報誌「ESSE(エッセ)」の読者が選ぶ「ふるさとグランプリ2019」で

本町のいくらが、初代総合グランプリに選ばれました。

「ESSEふるさとグランプリ」とは、ESSEの読者が全国の魅力あふれるふるさとナンバーワンを決める企画です。ふるさと納税のお礼の品を試食し、おいしさや生産者のこだわり、寄付金の使い道、自治体の魅力などが総合的に評価されます。

第1回目となる「ふるさとグランプリ2019」で総合グランプリに選ばれたのが本町のふるさと納税のお礼の品、広洋水産株式会社の「北海道海鮮紀行いくら(醤油味)」です。ESSE読者から、いくららの味はもちろんのこと、「コミュニティバスの運行」や寄付者を対象に



ESSEふるさとグランプリ2019 初代総合グランプリ受賞!

「味が自慢の返礼品部門」や「インパクト返礼品部門」、「寄付金の使い道部門」など、各部門賞があるなか、見事総合グランプリを受賞しました。



ESSE出版社の株式会社扶桑社 福原知晃取締役 (写真左)

白糠町の いくら

12月23日、総合グランプリの贈呈式が役場と広洋水産で行われ、株式会社扶桑社の福原知晃取締役から棚野町長と広洋水産の河北康明代表取締役社長に、それぞれトロフィーと副賞の「のぼり旗」が贈られました。



東京のレストランで開催している「感謝祭」といった寄付金の使い道にも高評価を得ました。
棚野町長は「広洋水産のいくらや本町のさまざまなお礼の品が高く評価され、本当にうれしく思っています。総合グランプリ受賞の名に恥じないように、これからも最善を尽くします」、広洋水産の河北康明社長は「関係者皆さんの協力により受賞できたと思っています。今後も従業員一同、最高のサービスと品質を提供できるように頑張ります」と喜びを語りました。